



... 卷之四 ... 四 ... 五 ... 六 ... 七 ... 八 ... 九 ... 十 ... 十一 ... 十二 ... 十三 ... 十四 ... 十五 ... 十六 ... 十七 ... 十八 ... 十九 ... 二十 ... 二十一 ... 二十二 ... 二十三 ... 二十四 ... 二十五 ... 二十六 ... 二十七 ... 二十八 ... 二十九 ... 三十 ... 三十一 ... 三十二 ... 三十三 ... 三十四 ... 三十五 ... 三十六 ... 三十七 ... 三十八 ... 三十九 ... 四十 ... 四十一 ... 四十二 ... 四十三 ... 四十四 ... 四十五 ... 四十六 ... 四十七 ... 四十八 ... 四十九 ... 五十 ... 五十一 ... 五十二 ... 五十三 ... 五十四 ... 五十五 ... 五十六 ... 五十七 ... 五十八 ... 五十九 ... 六十 ... 六十一 ... 六十二 ... 六十三 ... 六十四 ... 六十五 ... 六十六 ... 六十七 ... 六十八 ... 六十九 ... 七十 ... 七十一 ... 七十二 ... 七十三 ... 七十四 ... 七十五 ... 七十六 ... 七十七 ... 七十八 ... 七十九 ... 八十 ... 八十一 ... 八十二 ... 八十三 ... 八十四 ... 八十五 ... 八十六 ... 八十七 ... 八十八 ... 八十九 ... 九十 ... 九十一 ... 九十二 ... 九十三 ... 九十四 ... 九十五 ... 九十六 ... 九十七 ... 九十八 ... 九十九 ... 一百 ...

... 卷之五 ... 一 ... 二 ... 三 ... 四 ... 五 ... 六 ... 七 ... 八 ... 九 ... 十 ... 十一 ... 十二 ... 十三 ... 十四 ... 十五 ... 十六 ... 十七 ... 十八 ... 十九 ... 二十 ... 二十一 ... 二十二 ... 二十三 ... 二十四 ... 二十五 ... 二十六 ... 二十七 ... 二十八 ... 二十九 ... 三十 ... 三十一 ... 三十二 ... 三十三 ... 三十四 ... 三十五 ... 三十六 ... 三十七 ... 三十八 ... 三十九 ... 四十 ... 四十一 ... 四十二 ... 四十三 ... 四十四 ... 四十五 ... 四十六 ... 四十七 ... 四十八 ... 四十九 ... 五十 ... 五十一 ... 五十二 ... 五十三 ... 五十四 ... 五十五 ... 五十六 ... 五十七 ... 五十八 ... 五十九 ... 六十 ... 六十一 ... 六十二 ... 六十三 ... 六十四 ... 六十五 ... 六十六 ... 六十七 ... 六十八 ... 六十九 ... 七十 ... 七十一 ... 七十二 ... 七十三 ... 七十四 ... 七十五 ... 七十六 ... 七十七 ... 七十八 ... 七十九 ... 八十 ... 八十一 ... 八十二 ... 八十三 ... 八十四 ... 八十五 ... 八十六 ... 八十七 ... 八十八 ... 八十九 ... 九十 ... 九十一 ... 九十二 ... 九十三 ... 九十四 ... 九十五 ... 九十六 ... 九十七 ... 九十八 ... 九十九 ... 一百 ...

一、關於... 二、關於... 三、關於... 四、關於... 五、關於... 六、關於... 七、關於... 八、關於... 九、關於... 十、關於...

一、關於... 二、關於... 三、關於... 四、關於... 五、關於... 六、關於... 七、關於... 八、關於... 九、關於... 十、關於...

一、關於... 二、關於... 三、關於... 四、關於... 五、關於... 六、關於... 七、關於... 八、關於... 九、關於... 十、關於...

元，正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

元，正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

正德十四年，... 正德十四年，...

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

一、... 二、... 三、... 四、... 五、... 六、... 七、... 八、... 九、... 十、...

其人雖不學無術，然其心術則甚巧。其所以能
為人所服者，全在「心術」二字。其心術之巧，
在於能使人見其善而忘其惡。其所以能使人
見其善而忘其惡者，全在「心術」二字。其心
術之巧，在於能使人見其善而忘其惡。其所以
能使人見其善而忘其惡者，全在「心術」二
字。其心術之巧，在於能使人見其善而忘其
惡。其所以能使人見其善而忘其惡者，全在
「心術」二字。其心術之巧，在於能使人見其
善而忘其惡。其所以能使人見其善而忘其惡
者，全在「心術」二字。其心術之巧，在於能
使人見其善而忘其惡。其所以能使人見其善
而忘其惡者，全在「心術」二字。其心術之
巧，在於能使人見其善而忘其惡。其所以能
使人見其善而忘其惡者，全在「心術」二字。

此書之內容，全在「心術」二字。其心術之
巧，在於能使人見其善而忘其惡。其所以能
使人見其善而忘其惡者，全在「心術」二字。
其心術之巧，在於能使人見其善而忘其惡。
其所以能使人見其善而忘其惡者，全在「心
術」二字。其心術之巧，在於能使人見其善
而忘其惡。其所以能使人見其善而忘其惡者，
全在「心術」二字。其心術之巧，在於能使人
見其善而忘其惡。其所以能使人見其善而忘
其惡者，全在「心術」二字。其心術之巧，在
於能使人見其善而忘其惡。其所以能使人見
其善而忘其惡者，全在「心術」二字。其心術
之巧，在於能使人見其善而忘其惡。其所以
能使人見其善而忘其惡者，全在「心術」二
字。其心術之巧，在於能使人見其善而忘其
惡。其所以能使人見其善而忘其惡者，全在
「心術」二字。其心術之巧，在於能使人見其
善而忘其惡。其所以能使人見其善而忘其惡
者，全在「心術」二字。其心術之巧，在於能
使人見其善而忘其惡。其所以能使人見其善
而忘其惡者，全在「心術」二字。其心術之
巧，在於能使人見其善而忘其惡。其所以能
使人見其善而忘其惡者，全在「心術」二字。

... 夫君子之於天下也，無所不為。...

... 夫君子之於天下也，無所不為。...

一、文法：研究語言的規則與結構，包括語法、句法、詞法、音韻等。
二、音韻學：研究聲音的組合與韻律，探討音節、聲調、韻母等。
三、語法學：研究詞句的組織與變化，包括詞類、句法結構等。
四、詞源學：研究詞的來源與演變，探討詞義的歷史與流變。
五、文字學：研究文字的起源與發展，包括篆、隸、楷、行、草等書體。
六、方言學：研究不同地區的語言變體，探討方言的地理分布與特徵。
七、語言接觸：研究不同語言之間的相互影響與借詞現象。
八、語言類型學：研究語言的類型與特徵，探討語言的普遍性與特殊性。

以上為語言學的主要分支，其研究範圍廣泛，旨在揭示語言的奧秘與規律。在學習過程中，應注重基礎知識的掌握與實踐能力的培養，以期達到對語言的深入理解與應用。

1845	1846	1847	1848	1849
1850	1851	1852	1853	1854
1855	1856	1857	1858	1859
1860	1861	1862	1863	1864
1865	1866	1867	1868	1869
1870	1871	1872	1873	1874
1875	1876	1877	1878	1879
1880	1881	1882	1883	1884
1885	1886	1887	1888	1889
1890	1891	1892	1893	1894
1895	1896	1897	1898	1899
1900	1901	1902	1903	1904
1905	1906	1907	1908	1909
1910	1911	1912	1913	1914
1915	1916	1917	1918	1919
1920	1921	1922	1923	1924
1925	1926	1927	1928	1929
1930	1931	1932	1933	1934
1935	1936	1937	1938	1939
1940	1941	1942	1943	1944
1945	1946	1947	1948	1949
1950	1951	1952	1953	1954
1955	1956	1957	1958	1959
1960	1961	1962	1963	1964
1965	1966	1967	1968	1969
1970	1971	1972	1973	1974
1975	1976	1977	1978	1979
1980	1981	1982	1983	1984
1985	1986	1987	1988	1989
1990	1991	1992	1993	1994
1995	1996	1997	1998	1999
2000	2001	2002	2003	2004

一、
 二、
 三、
 四、
 五、
 六、
 七、
 八、
 九、
 十、
 十一、
 十二、
 十三、
 十四、
 十五、
 十六、
 十七、
 十八、
 十九、
 二十、
 二十一、
 二十二、
 二十三、
 二十四、
 二十五、
 二十六、
 二十七、
 二十八、
 二十九、
 三十、
 三十一、
 三十二、
 三十三、
 三十四、
 三十五、
 三十六、
 三十七、
 三十八、
 三十九、
 四十、
 四十一、
 四十二、
 四十三、
 四十四、
 四十五、
 四十六、
 四十七、
 四十八、
 四十九、
 五十、
 五十一、
 五十二、
 五十三、
 五十四、
 五十五、
 五十六、
 五十七、
 五十八、
 五十九、
 六十、
 六十一、
 六十二、
 六十三、
 六十四、
 六十五、
 六十六、
 六十七、
 六十八、
 六十九、
 七十、
 七十一、
 七十二、
 七十三、
 七十四、
 七十五、
 七十六、
 七十七、
 七十八、
 七十九、
 八十、
 八十一、
 八十二、
 八十三、
 八十四、
 八十五、
 八十六、
 八十七、
 八十八、
 八十九、
 九十、
 九十一、
 九十二、
 九十三、
 九十四、
 九十五、
 九十六、
 九十七、
 九十八、
 九十九、
 一百、

1. 凡有... 2. 凡有... 3. 凡有... 4. 凡有... 5. 凡有... 6. 凡有... 7. 凡有... 8. 凡有... 9. 凡有... 10. 凡有... 11. 凡有... 12. 凡有... 13. 凡有... 14. 凡有... 15. 凡有... 16. 凡有... 17. 凡有... 18. 凡有... 19. 凡有... 20. 凡有... 21. 凡有... 22. 凡有... 23. 凡有... 24. 凡有... 25. 凡有... 26. 凡有... 27. 凡有... 28. 凡有... 29. 凡有... 30. 凡有... 31. 凡有... 32. 凡有... 33. 凡有... 34. 凡有... 35. 凡有... 36. 凡有... 37. 凡有... 38. 凡有... 39. 凡有... 40. 凡有... 41. 凡有... 42. 凡有... 43. 凡有... 44. 凡有... 45. 凡有... 46. 凡有... 47. 凡有... 48. 凡有... 49. 凡有... 50. 凡有... 51. 凡有... 52. 凡有... 53. 凡有... 54. 凡有... 55. 凡有... 56. 凡有... 57. 凡有... 58. 凡有... 59. 凡有... 60. 凡有... 61. 凡有... 62. 凡有... 63. 凡有... 64. 凡有... 65. 凡有... 66. 凡有... 67. 凡有... 68. 凡有... 69. 凡有... 70. 凡有... 71. 凡有... 72. 凡有... 73. 凡有... 74. 凡有... 75. 凡有... 76. 凡有... 77. 凡有... 78. 凡有... 79. 凡有... 80. 凡有... 81. 凡有... 82. 凡有... 83. 凡有... 84. 凡有... 85. 凡有... 86. 凡有... 87. 凡有... 88. 凡有... 89. 凡有... 90. 凡有... 91. 凡有... 92. 凡有... 93. 凡有... 94. 凡有... 95. 凡有... 96. 凡有... 97. 凡有... 98. 凡有... 99. 凡有... 100. 凡有...

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----

其間亦有許多奇蹟。如：一、某處有一人，因患此症，經人介紹，往某處求醫。該處有一老翁，見其人狀甚慘，遂問其病由。其人曰：「我自幼患此症，至今未癒。」老翁曰：「此症非尋常藥餌所能治，須用一種奇藥。」其人曰：「何藥？」老翁曰：「此藥名曰『神效散』，乃我祖傳秘方，專治此症。」其人曰：「此藥何處有售？」老翁曰：「此藥不在市上，須親自來取。」其人曰：「如何取法？」老翁曰：「須於每日清晨，將此藥散於地，待至日中，藥散即化為水，飲之即愈。」其人曰：「此藥何處有售？」老翁曰：「此藥不在市上，須親自來取。」其人曰：「如何取法？」老翁曰：「須於每日清晨，將此藥散於地，待至日中，藥散即化為水，飲之即愈。」

其間亦有許多奇蹟。如：一、某處有一人，因患此症，經人介紹，往某處求醫。該處有一老翁，見其人狀甚慘，遂問其病由。其人曰：「我自幼患此症，至今未癒。」老翁曰：「此症非尋常藥餌所能治，須用一種奇藥。」其人曰：「何藥？」老翁曰：「此藥名曰『神效散』，乃我祖傳秘方，專治此症。」其人曰：「此藥何處有售？」老翁曰：「此藥不在市上，須親自來取。」其人曰：「如何取法？」老翁曰：「須於每日清晨，將此藥散於地，待至日中，藥散即化為水，飲之即愈。」

Handwritten text at the top of the right page, possibly a title or header.

Main body of handwritten text on the right page, enclosed in a rectangular border.

Vertical text on the right edge of the right page, possibly a page number or marginal note.

Main body of handwritten text on the left page, enclosed in a rectangular border.

Vertical text on the left edge of the left page, possibly a page number or marginal note.

又謂：「此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。」

此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。

此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。

此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。

此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。此書之成，實賴諸君之贊助，故特刊此佈告，以誌謝忱。

其後，拉斐爾亦受命於教皇，在西斯廷禮拜堂繪畫巨作「創世」。這幅畫作不僅展現了神聖的氣息，更體現了拉斐爾對人體美的精湛把握。在另一個領域，達芬奇的「蒙娜麗莎」以她那神秘的微笑，成為世界藝術史上最令人神往的畫作之一。此外，米開朗基羅的「大衛」則以其細膩的情感表達和強烈的個體性，展現了文藝復興時期對人性尊嚴的深刻思考。這些傑作共同見證了那個時代藝術的輝煌與創造力的爆發。

在十八世紀，巴洛克風格以其動人的戲劇性和繁複的裝飾，在歐洲各地盛行之。而在法國，洛可可風格則以其輕盈、優雅和對細節的精緻追求，展現了貴族社會的審美情趣。此時期的藝術不僅是美的展現，更是社會階級與文化審美的反映。進入十九世紀，浪漫主義興起，藝術家們開始關注自然的力量、情感的波動以及個人的英雄主義精神。而到了十九世紀末至二十世紀初，印象派和後來的現代主義則徹底顛覆了傳統的繪畫觀念，將藝術的重心轉向了光影、色彩和形式的探索，為現代藝術的多元化發展奠定了堅實的基礎。

總之，西方藝術史是一部充滿變遷與創新的長河，每一時期的傑作都承襲了前人的智慧，又開拓了新的疆域。這些藝術瑰寶不僅是美的享受，更是人類文明進步的縮影。

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

二、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

三、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

四、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

五、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

一、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

二、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

三、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

四、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

五、其所以能如此者，實由於其能自強也。夫自強者，不恃其力之強，而恃其心之固。心固則力自強，力強則事自成。此其所以能自強也。

...

...

一、國體：指國家之體制，包括君主立憲與民主共和。

二、政體：指政府之組織形式，如君主制、共和制等。

三、憲法：指國家最高法律，規定國家根本制度。

四、行政：指政府執行法律之權限與程序。

五、立法：指制定法律之權限與程序。

六、司法：指裁判法律糾紛之權限與程序。

七、選舉：指選出代表或官員之制度。

八、黨派：指具有共同政治目標之組織。

九、公民：指具有法律上權利與義務之個人。

十、權利：指法律所保障之自由與利益。

一、國體：指國家之體制，包括君主立憲與民主共和。

二、政體：指政府之組織形式，如君主制、共和制等。

三、憲法：指國家最高法律，規定國家根本制度。

四、行政：指政府執行法律之權限與程序。

五、立法：指制定法律之權限與程序。

六、司法：指裁判法律糾紛之權限與程序。

七、選舉：指選出代表或官員之制度。

八、黨派：指具有共同政治目標之組織。

九、公民：指具有法律上權利與義務之個人。

十、權利：指法律所保障之自由與利益。

... 一、 二、 三、 四、 五、 六、 七、 八、 九、 十、 十一、 十二、 十三、 十四、 十五、 十六、 十七、 十八、 十九、 二十、 二十一、 二十二、 二十三、 二十四、 二十五、 二十六、 二十七、 二十八、 二十九、 三十、 三十一、 三十二、 三十三、 三十四、 三十五、 三十六、 三十七、 三十八、 三十九、 四十、 四十一、 四十二、 四十三、 四十四、 四十五、 四十六、 四十七、 四十八、 四十九、 五十、 五十一、 五十二、 五十三、 五十四、 五十五、 五十六、 五十七、 五十八、 五十九、 六十、 六十一、 六十二、 六十三、 六十四、 六十五、 六十六、 六十七、 六十八、 六十九、 七十、 七十一、 七十二、 七十三、 七十四、 七十五、 七十六、 七十七、 七十八、 七十九、 八十、 八十一、 八十二、 八十三、 八十四、 八十五、 八十六、 八十七、 八十八、 八十九、 九十、 九十一、 九十二、 九十三、 九十四、 九十五、 九十六、 九十七、 九十八、 九十九、 一百

... 一、 二、 三、 四、 五、 六、 七、 八、 九、 十、 十一、 十二、 十三、 十四、 十五、 十六、 十七、 十八、 十九、 二十、 二十一、 二十二、 二十三、 二十四、 二十五、 二十六、 二十七、 二十八、 二十九、 三十、 三十一、 三十二、 三十三、 三十四、 三十五、 三十六、 三十七、 三十八、 三十九、 四十、 四十一、 四十二、 四十三、 四十四、 四十五、 四十六、 四十七、 四十八、 四十九、 五十、 五十一、 五十二、 五十三、 五十四、 五十五、 五十六、 五十七、 五十八、 五十九、 六十、 六十一、 六十二、 六十三、 六十四、 六十五、 六十六、 六十七、 六十八、 六十九、 七十、 七十一、 七十二、 七十三、 七十四、 七十五、 七十六、 七十七、 七十八、 七十九、 八十、 八十一、 八十二、 八十三、 八十四、 八十五、 八十六、 八十七、 八十八、 八十九、 九十、 九十一、 九十二、 九十三、 九十四、 九十五、 九十六、 九十七、 九十八、 九十九、 一百

卷之三

三

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、凡屬國家之政務，皆由國民大會選舉之代表，行使其職權。此種代表，其權限之廣狹，視各國之憲法而定。如瑞士之國民大會，其權限最廣，包括立法、行政、司法、外交、國防等一切事務。而如美國之國會，則僅限於立法及預算之權。此種代表之選舉，其程序亦各國不同。如瑞士之國民大會，係由各州之代表組成，其選舉程序亦由各州自行規定。而如美國之國會，則係由直接選舉之眾議院及由州議會選舉之參議院組成。此種代表之任期，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其任期僅為一年。而如美國之國會，則眾議院之任期為二年，參議院之任期為六年。此種代表之職權，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其職權最廣，包括一切國家事務。而如美國之國會，則僅限於立法及預算之權。此種代表之地位，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其地位最高，為國家之最高權力機關。而如美國之國會，則僅為立法機關，其地位低於行政機關及司法機關。此種代表之組織，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其組織最為簡單，僅由代表組成。而如美國之國會，其組織較為複雜，包括眾議院及參議院。此種代表之選舉，其程序亦各國不同。如瑞士之國民大會，其選舉程序最為簡單，僅由各州之代表組成。而如美國之國會，其選舉程序較為複雜，包括直接選舉及州議會選舉。此種代表之任期，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其任期僅為一年。而如美國之國會，則眾議院之任期為二年，參議院之任期為六年。此種代表之職權，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其職權最廣，包括一切國家事務。而如美國之國會，則僅限於立法及預算之權。此種代表之地位，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其地位最高，為國家之最高權力機關。而如美國之國會，則僅為立法機關，其地位低於行政機關及司法機關。此種代表之組織，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其組織最為簡單，僅由代表組成。而如美國之國會，其組織較為複雜，包括眾議院及參議院。

二、凡屬國家之政務，皆由國民大會選舉之代表，行使其職權。此種代表，其權限之廣狹，視各國之憲法而定。如瑞士之國民大會，其權限最廣，包括立法、行政、司法、外交、國防等一切事務。而如美國之國會，則僅限於立法及預算之權。此種代表之選舉，其程序亦各國不同。如瑞士之國民大會，係由各州之代表組成，其選舉程序亦由各州自行規定。而如美國之國會，則係由直接選舉之眾議院及由州議會選舉之參議院組成。此種代表之任期，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其任期僅為一年。而如美國之國會，則眾議院之任期為二年，參議院之任期為六年。此種代表之職權，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其職權最廣，包括一切國家事務。而如美國之國會，則僅限於立法及預算之權。此種代表之地位，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其地位最高，為國家之最高權力機關。而如美國之國會，則僅為立法機關，其地位低於行政機關及司法機關。此種代表之組織，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其組織最為簡單，僅由代表組成。而如美國之國會，其組織較為複雜，包括眾議院及參議院。此種代表之選舉，其程序亦各國不同。如瑞士之國民大會，其選舉程序最為簡單，僅由各州之代表組成。而如美國之國會，其選舉程序較為複雜，包括直接選舉及州議會選舉。此種代表之任期，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其任期僅為一年。而如美國之國會，則眾議院之任期為二年，參議院之任期為六年。此種代表之職權，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其職權最廣，包括一切國家事務。而如美國之國會，則僅限於立法及預算之權。此種代表之地位，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其地位最高，為國家之最高權力機關。而如美國之國會，則僅為立法機關，其地位低於行政機關及司法機關。此種代表之組織，亦各國不同。如瑞士之國民大會，其組織最為簡單，僅由代表組成。而如美國之國會，其組織較為複雜，包括眾議院及參議院。

此乃一書中之一章也。其書名曰《論衡》。其書中論及天地之理，及人之性理。其言甚奇，其理甚深。其書中論及天地之理，及人之性理。其言甚奇，其理甚深。

此乃一書中之一章也。其書名曰《論衡》。其書中論及天地之理，及人之性理。其言甚奇，其理甚深。其書中論及天地之理，及人之性理。其言甚奇，其理甚深。

此乃一書中之一章也。其書名曰《論衡》。其書中論及天地之理，及人之性理。其言甚奇，其理甚深。其書中論及天地之理，及人之性理。其言甚奇，其理甚深。

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、

二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、

其言曰：夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。

夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。

其言曰：夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。夫君子之於人也，如日月之麗天也。見之者皆悅，而不可及也。

其言曰：夫所謂「道」者，非外於人心者也。人心之於道，猶水之於魚也。魚之於水，猶人之於道也。故曰：道在人心，人心即道。此所謂「道心」也。然道心之於人心，猶水之於魚也。魚之於水，猶人之於道也。故曰：道在人心，人心即道。此所謂「道心」也。然道心之於人心，猶水之於魚也。魚之於水，猶人之於道也。故曰：道在人心，人心即道。此所謂「道心」也。

其言曰：夫所謂「道」者，非外於人心者也。人心之於道，猶水之於魚也。魚之於水，猶人之於道也。故曰：道在人心，人心即道。此所謂「道心」也。然道心之於人心，猶水之於魚也。魚之於水，猶人之於道也。故曰：道在人心，人心即道。此所謂「道心」也。

讀書之益。非徒在知識之廣。而在心志之定。心志定則知識自廣。心志不定則知識自窄。故君子必先求其心。心既正。則其知自明。其行自直。此讀書之要領也。且讀書不可不擇。若徒求其多。而不求其精。則如飲鴆止渴。反為其所害。故當先求其有益於身心者。而後讀之。庶幾不致有誤。

讀書之法。不可不詳。夫讀書之要。在於心領神會。而非徒在口誦。若徒求其多。而不求其精。則如飲鴆止渴。反為其所害。故當先求其有益於身心者。而後讀之。庶幾不致有誤。且讀書不可不擇。若徒求其多。而不求其精。則如飲鴆止渴。反為其所害。故當先求其有益於身心者。而後讀之。庶幾不致有誤。

... 一、...

... 一、...

夫《易》之於世也，有裨於道，有裨於政，有裨於民，有裨於事，有裨於身，有裨於家，有裨於國，有裨於天下，有裨於萬世，有裨於無窮。故君子居則觀象而玩辭，動則環索而象數。其於道也，有裨於道；其於政也，有裨於政；其於民也，有裨於民；其於事也，有裨於事；其於身也，有裨於身；其於家也，有裨於家；其於國也，有裨於國；其於天下也，有裨於天下；其於萬世也，有裨於萬世；其於無窮也，有裨於無窮。故君子居則觀象而玩辭，動則環索而象數。其於道也，有裨於道；其於政也，有裨於政；其於民也，有裨於民；其於事也，有裨於事；其於身也，有裨於身；其於家也，有裨於家；其於國也，有裨於國；其於天下也，有裨於天下；其於萬世也，有裨於萬世；其於無窮也，有裨於無窮。

夫《易》之於世也，有裨於道，有裨於政，有裨於民，有裨於事，有裨於身，有裨於家，有裨於國，有裨於天下，有裨於萬世，有裨於無窮。故君子居則觀象而玩辭，動則環索而象數。其於道也，有裨於道；其於政也，有裨於政；其於民也，有裨於民；其於事也，有裨於事；其於身也，有裨於身；其於家也，有裨於家；其於國也，有裨於國；其於天下也，有裨於天下；其於萬世也，有裨於萬世；其於無窮也，有裨於無窮。

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

十一、
十二、
十三、
十四、
十五、

十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、

一、讀書之法。先求其大義。次求其小義。次求其字義。此三者不可偏廢也。大義者。文章之宗旨也。小義者。文章之體裁也。字義者。文章之詞句也。三者相輔相成。缺一不可。故讀書之時。必先求其大義。然後求其小義。然後求其字義。此乃讀書之正法也。若先求字義。後求小義。再求大義。則如盲人騎瞎馬。夜半臨深池。其危險可知矣。故凡欲讀書者。不可不察此三者之先後也。

二、讀書之益。在於明理。在於增進。在於怡情。此三者不可偏廢也。明理者。讀書之根本也。增進者。讀書之枝節也。怡情者。讀書之末節也。三者相輔相成。缺一不可。故讀書之時。必先求其明理。然後求其增進。然後求其怡情。此乃讀書之正法也。若先求怡情。後求增進。再求明理。則如無源之水。無本之木。其危險可知矣。故凡欲讀書者。不可不察此三者之先後也。

讀書之法，一曰：先讀其大綱，次讀其細目，然後讀其全文。此法之妙，在於先見其大，後見其小，則其理自明。如讀史，先讀其年表，次讀其列傳，然後讀其本紀。如讀子，先讀其篇目，次讀其章句，然後讀其全文。此法之妙，在於先見其目，後見其目，則其理自明。如讀詩，先讀其篇目，次讀其章句，然後讀其全文。此法之妙，在於先見其目，後見其目，則其理自明。如讀論，先讀其篇目，次讀其章句，然後讀其全文。此法之妙，在於先見其目，後見其目，則其理自明。

讀書之法，一曰：先讀其大綱，次讀其細目，然後讀其全文。此法之妙，在於先見其大，後見其小，則其理自明。如讀史，先讀其年表，次讀其列傳，然後讀其本紀。如讀子，先讀其篇目，次讀其章句，然後讀其全文。此法之妙，在於先見其目，後見其目，則其理自明。如讀詩，先讀其篇目，次讀其章句，然後讀其全文。此法之妙，在於先見其目，後見其目，則其理自明。如讀論，先讀其篇目，次讀其章句，然後讀其全文。此法之妙，在於先見其目，後見其目，則其理自明。

一、論教育之重要性
教育者，立國之本也。古語有云：十年樹木，百年樹人。此言教育之長遠影響也。教育能啟蒙民智，培養人才，使國家強盛，民族振興。故凡欲求國家之進步，必先重教育。教育之興，則民智漸開，人才輩出，國家自能日趨繁榮。反之，教育廢弛，則民愚民弱，國家必衰。此理之明，不言而喻。故吾人當共勉之，使教育事業蒸蒸日上，為國家民族之未來，貢獻一份力量。

二、論社會之進步
社會之進步，在於人心之向善。人心向善，則社會和諧，百業興隆。人心向惡，則社會動盪，民不聊生。故欲求社會之進步，必先修人心。人心之修，在於教育。教育能使人明理，知恥，守禮，從而達到人心向善之目的。此外，社會之進步，亦在於制度之完善。制度者，社會之規範也。良法善治，則社會有序，人民安居樂業。故吾人當共同努力，使社會制度日趨完善，社會進步日趨明顯。

一、增補 補遺。此篇為《增補》之末篇，其內容與前篇相呼應，主要論述了作者在編纂過程中所遇到的一些困難和解決辦法。文章強調了資料的廣泛採集和細緻篩選的重要性，並對一些未盡事宜進行了補充說明。

二、增補 附錄。此部分包含了一些與正文相關的補充材料，如一些歷史文獻的影印、對某些名詞的考證以及與本主題有關的相關研究論文摘要。這些附錄旨在為讀者提供更全面的背景知識和參考資料。

三、增補 跋語。此為作者在本書出版前所寫之跋語，回顧了本書的編纂經過，感謝了相關人士的支持與幫助，並對本書存在的不足之處表示遺憾，並歡迎讀者對本書提出批評和建議。

四、增補 索引。此部分為本書增加的一個重要索引，方便讀者快速查找書中提及的人名、地名、事件等關鍵信息。索引的編纂力求詳盡、準確，以增強本書的實用性。

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

一、...
二、...
三、...
四、...
五、...
六、...
七、...
八、...
九、...
十、...

其所以為道者，在於其心之誠也。誠者，天之道也。思誠者，人之道也。至誠而不動者，天下之歸之如水之就下焉。君子居則遷而德化，行則而民望。是以君子必先誠其意，然後正其心，正其心則誠，誠則形，形則著，著則明，明則動，動則化，化則神。神不可及也。故君子居則遷而德化，行則而民望。是以君子必先誠其意，然後正其心，正其心則誠，誠則形，形則著，著則明，明則動，動則化，化則神。神不可及也。

其所以為道者，在於其心之誠也。誠者，天之道也。思誠者，人之道也。至誠而不動者，天下之歸之如水之就下焉。君子居則遷而德化，行則而民望。是以君子必先誠其意，然後正其心，正其心則誠，誠則形，形則著，著則明，明則動，動則化，化則神。神不可及也。故君子居則遷而德化，行則而民望。是以君子必先誠其意，然後正其心，正其心則誠，誠則形，形則著，著則明，明則動，動則化，化則神。神不可及也。

1
2
3
4
5

... (faded text) ...

... (faded text) ...

... (faded text) ...

... (faded text) ...

... 卷之四 ... 四 ... 五 ... 六 ... 七 ... 八 ... 九 ... 十 ... 十一 ... 十二 ... 十三 ... 十四 ... 十五 ... 十六 ... 十七 ... 十八 ... 十九 ... 二十 ... 二十一 ... 二十二 ... 二十三 ... 二十四 ... 二十五 ... 二十六 ... 二十七 ... 二十八 ... 二十九 ... 三十 ... 三十一 ... 三十二 ... 三十三 ... 三十四 ... 三十五 ... 三十六 ... 三十七 ... 三十八 ... 三十九 ... 四十 ... 四十一 ... 四十二 ... 四十三 ... 四十四 ... 四十五 ... 四十六 ... 四十七 ... 四十八 ... 四十九 ... 五十 ... 五十一 ... 五十二 ... 五十三 ... 五十四 ... 五十五 ... 五十六 ... 五十七 ... 五十八 ... 五十九 ... 六十 ... 六十一 ... 六十二 ... 六十三 ... 六十四 ... 六十五 ... 六十六 ... 六十七 ... 六十八 ... 六十九 ... 七十 ... 七十一 ... 七十二 ... 七十三 ... 七十四 ... 七十五 ... 七十六 ... 七十七 ... 七十八 ... 七十九 ... 八十 ... 八十一 ... 八十二 ... 八十三 ... 八十四 ... 八十五 ... 八十六 ... 八十七 ... 八十八 ... 八十九 ... 九十 ... 九十一 ... 九十二 ... 九十三 ... 九十四 ... 九十五 ... 九十六 ... 九十七 ... 九十八 ... 九十九 ... 一百 ...

... 卷之五 ... 一 ... 二 ... 三 ... 四 ... 五 ... 六 ... 七 ... 八 ... 九 ... 十 ... 十一 ... 十二 ... 十三 ... 十四 ... 十五 ... 十六 ... 十七 ... 十八 ... 十九 ... 二十 ... 二十一 ... 二十二 ... 二十三 ... 二十四 ... 二十五 ... 二十六 ... 二十七 ... 二十八 ... 二十九 ... 三十 ... 三十一 ... 三十二 ... 三十三 ... 三十四 ... 三十五 ... 三十六 ... 三十七 ... 三十八 ... 三十九 ... 四十 ... 四十一 ... 四十二 ... 四十三 ... 四十四 ... 四十五 ... 四十六 ... 四十七 ... 四十八 ... 四十九 ... 五十 ... 五十一 ... 五十二 ... 五十三 ... 五十四 ... 五十五 ... 五十六 ... 五十七 ... 五十八 ... 五十九 ... 六十 ... 六十一 ... 六十二 ... 六十三 ... 六十四 ... 六十五 ... 六十六 ... 六十七 ... 六十八 ... 六十九 ... 七十 ... 七十一 ... 七十二 ... 七十三 ... 七十四 ... 七十五 ... 七十六 ... 七十七 ... 七十八 ... 七十九 ... 八十 ... 八十一 ... 八十二 ... 八十三 ... 八十四 ... 八十五 ... 八十六 ... 八十七 ... 八十八 ... 八十九 ... 九十 ... 九十一 ... 九十二 ... 九十三 ... 九十四 ... 九十五 ... 九十六 ... 九十七 ... 九十八 ... 九十九 ... 一百 ...

學問之要，在於心術。心術正，則學問明。心術不正，則學問暗。心術之要，在於誠。誠者，天之道也。思誠者，人之道也。至誠而不動者，未之有也；不誠，未有能者也。誠之者，擇善而固執之者也。博學之，審問之，慎思之，明辨之，篤行之。有弗學，學之弗能，弗措也；有弗能，能之弗知，弗措也；有弗知，知而弗能，弗措也；人一能之，己百之；人十能之，己千之。果能此道矣，雖愚必明，雖柔必強。

學問之要，在於心術。心術正，則學問明。心術不正，則學問暗。心術之要，在於誠。誠者，天之道也。思誠者，人之道也。至誠而不動者，未之有也；不誠，未有能者也。誠之者，擇善而固執之者也。博學之，審問之，慎思之，明辨之，篤行之。有弗學，學之弗能，弗措也；有弗能，能之弗知，弗措也；有弗知，知而弗能，弗措也；人一能之，己百之；人十能之，己千之。果能此道矣，雖愚必明，雖柔必強。

一、論。此篇論及天下之理，皆由人心之正與不正而定。人心之正，則天下之理亦正；人心之不正，則天下之理亦不正。故曰：「心正則身正，身正則家齊，家齊則國治，國治則天下平。」此乃儒家之基本教義也。又論及君子之修德，當以誠為本，以仁為體，以禮為節，以義為方。君子之德，如日月之照臨天下，無所不至。故曰：「君子之德，風也；小人之德，草也。君子之德，不可及也。」此篇之論，皆為後世所宗。

二、論。此篇論及天下之理，皆由人心之正與不正而定。人心之正，則天下之理亦正；人心之不正，則天下之理亦不正。故曰：「心正則身正，身正則家齊，家齊則國治，國治則天下平。」此乃儒家之基本教義也。又論及君子之修德，當以誠為本，以仁為體，以禮為節，以義為方。君子之德，如日月之照臨天下，無所不至。故曰：「君子之德，風也；小人之德，草也。君子之德，不可及也。」此篇之論，皆為後世所宗。

一、此書之體裁，與前書無異，其間亦有論及
世道人心者，然其言多屬空泛，且多有
自相矛盾之處，其言曰：『夫君子之
道，不可一日而廢也。』然其言又曰：
『君子之道，不可一日而廢也。』

二、此書之體裁，與前書無異，其間亦有論及
世道人心者，然其言多屬空泛，且多有
自相矛盾之處，其言曰：『夫君子之
道，不可一日而廢也。』然其言又曰：
『君子之道，不可一日而廢也。』

三、此書之體裁，與前書無異，其間亦有論及
世道人心者，然其言多屬空泛，且多有
自相矛盾之處，其言曰：『夫君子之
道，不可一日而廢也。』然其言又曰：
『君子之道，不可一日而廢也。』

四、此書之體裁，與前書無異，其間亦有論及
世道人心者，然其言多屬空泛，且多有
自相矛盾之處，其言曰：『夫君子之
道，不可一日而廢也。』然其言又曰：
『君子之道，不可一日而廢也。』

夫有司之職，在於察民之隱，而救其災，使民無憾，則民歸之如流水。是以君子必先慎乎德，無德而治，猶無水而魚也。

昔者聖王之治天下，必先慎乎德，無德而治，猶無水而魚也。是以君子必先慎乎德，無德而治，猶無水而魚也。

夫有司之職，在於察民之隱，而救其災，使民無憾，則民歸之如流水。是以君子必先慎乎德，無德而治，猶無水而魚也。

昔者聖王之治天下，必先慎乎德，無德而治，猶無水而魚也。是以君子必先慎乎德，無德而治，猶無水而魚也。

一、大體上之方針
二、小體上之方針
三、大體上之方針
四、小體上之方針
五、大體上之方針
六、小體上之方針
七、大體上之方針
八、小體上之方針
九、大體上之方針
十、小體上之方針

一、大體上之方針
二、小體上之方針
三、大體上之方針
四、小體上之方針
五、大體上之方針
六、小體上之方針
七、大體上之方針
八、小體上之方針
九、大體上之方針
十、小體上之方針

此種情形，固非由於其本人之意志，而由於其環境之影響，故其責任之歸屬，應視其環境之影響之程度而定。若其環境之影響，僅為一般性之影響，而非具有強制性或支配性，則其責任應由其本人承擔。若其環境之影響，具有強制性或支配性，則其責任應由該環境之主體承擔。此種情形，在刑法上，即所謂之「不可抗力」或「意外事件」。在民法上，即所謂之「無過失責任」或「公平責任」。此種責任之歸屬，應視其環境之主體之責任而定。若該環境之主體，具有過失或故意，則其責任應由該主體承擔。若該環境之主體，不具有過失或故意，則其責任應由法律規定之主體承擔。此種責任之歸屬，應視其環境之主體之責任而定。若該環境之主體，具有過失或故意，則其責任應由該主體承擔。若該環境之主體，不具有過失或故意，則其責任應由法律規定之主體承擔。

此種責任之歸屬，應視其環境之主體之責任而定。若該環境之主體，具有過失或故意，則其責任應由該主體承擔。若該環境之主體，不具有過失或故意，則其責任應由法律規定之主體承擔。此種責任之歸屬，應視其環境之主體之責任而定。若該環境之主體，具有過失或故意，則其責任應由該主體承擔。若該環境之主體，不具有過失或故意，則其責任應由法律規定之主體承擔。此種責任之歸屬，應視其環境之主體之責任而定。若該環境之主體，具有過失或故意，則其責任應由該主體承擔。若該環境之主體，不具有過失或故意，則其責任應由法律規定之主體承擔。

此法之妙，在於其能使人之心，
與天地萬物之心，相契相應。
此法之妙，在於其能使人之心，
與天地萬物之心，相契相應。

此法之妙，在於其能使人之心，
與天地萬物之心，相契相應。
此法之妙，在於其能使人之心，
與天地萬物之心，相契相應。

此法之妙，在於其能使人之心，
與天地萬物之心，相契相應。
此法之妙，在於其能使人之心，
與天地萬物之心，相契相應。

一、論。論者，論也。論之於世，其用大矣。蓋論之於世，所以明是非，辨美惡，定人心，而後已。故君子必先慎乎言。言之不辱，然後足以爲國也。論之於世，其用大矣。蓋論之於世，所以明是非，辨美惡，定人心，而後已。故君子必先慎乎言。言之不辱，然後足以爲國也。

二、論。論者，論也。論之於世，其用大矣。蓋論之於世，所以明是非，辨美惡，定人心，而後已。故君子必先慎乎言。言之不辱，然後足以爲國也。

三、論。論者，論也。論之於世，其用大矣。蓋論之於世，所以明是非，辨美惡，定人心，而後已。故君子必先慎乎言。言之不辱，然後足以爲國也。

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、論。夫道之於世也。猶水之於木也。木無水則枯。世無道則亂。故君子必先慎乎德。德有餘而後功。功有餘而後業。業有餘而後大。大而有餘。則天下歸之。如水之就下。沛然莫之能禦也。夫道之於世也。猶水之於木也。木無水則枯。世無道則亂。故君子必先慎乎德。德有餘而後功。功有餘而後業。業有餘而後大。大而有餘。則天下歸之。如水之就下。沛然莫之能禦也。夫道之於世也。猶水之於木也。木無水則枯。世無道則亂。故君子必先慎乎德。德有餘而後功。功有餘而後業。業有餘而後大。大而有餘。則天下歸之。如水之就下。沛然莫之能禦也。

二、論。夫道之於世也。猶水之於木也。木無水則枯。世無道則亂。故君子必先慎乎德。德有餘而後功。功有餘而後業。業有餘而後大。大而有餘。則天下歸之。如水之就下。沛然莫之能禦也。夫道之於世也。猶水之於木也。木無水則枯。世無道則亂。故君子必先慎乎德。德有餘而後功。功有餘而後業。業有餘而後大。大而有餘。則天下歸之。如水之就下。沛然莫之能禦也。夫道之於世也。猶水之於木也。木無水則枯。世無道則亂。故君子必先慎乎德。德有餘而後功。功有餘而後業。業有餘而後大。大而有餘。則天下歸之。如水之就下。沛然莫之能禦也。

民國二十九年

五月二十日

張學良

張學良

張學良

張學良

張學良

張學良

張學良

張學良

張學良

張學良

張學良